


「止めない」使命を担うことは こんなにもワクワクすることだ

 MCLC 三菱ケミカル物流株式会社



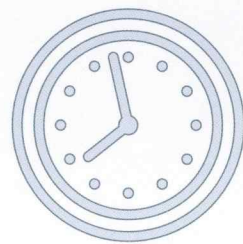
「社会の営み、産業の営みに 欠かせない物流」

World



+

Time



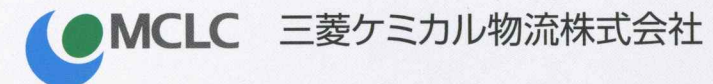
+

Distance



=

To Connect

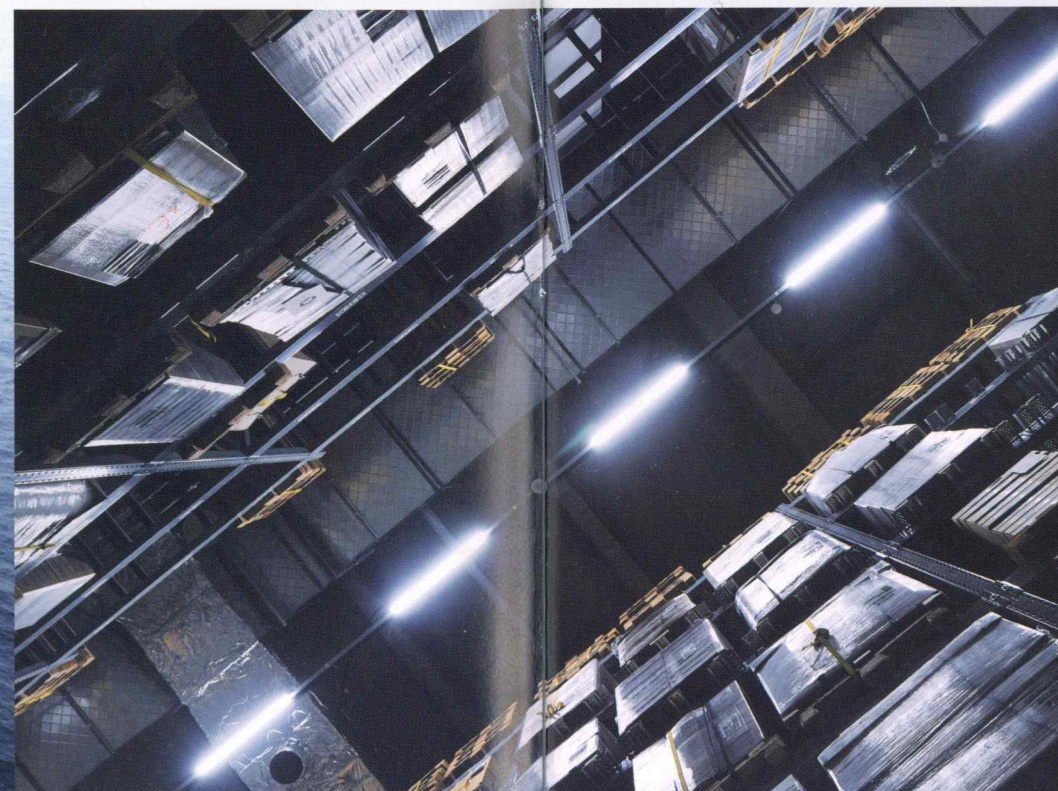


物流は、人々の生活や企業の活動を支える重要なインフラとしての機能をもっています。

必要なモノを必要な時に、必要な場所に、必要な量を揃えて届けること。それが実現されて初めて、私たちの日々の生活が滞りなく成り立ちます。

当社は、物流によって化学品業界の発展に寄与してきました。普段の生活の中で、意識する機会は少ない化学品ですが、私たちの身近な暮らしを支えています。つまり化学品業界の発展は、社会全体の発展へと繋がっていくのです。

そのためにも、この歩みを決して止めることなく、今日も進み続けています。

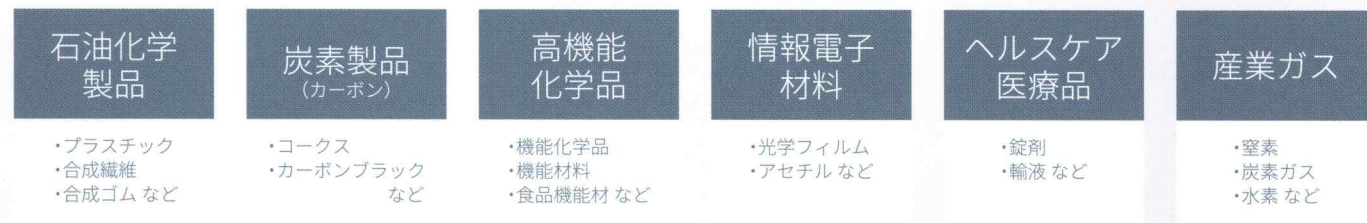


「ただ運ぶのではなく、 どう運ぶかが求められる」

1956年の創業以来、化学品物流の世界で60年以上にわたり、ハイレベルな物流品質と独自のノウハウ・技術を培ってきました。私たちが扱う輸送品は、特殊なものが多く、ときには危険物をも扱います。

三菱ケミカルホールディングスグループにおける物流の中核的役割を担うべく、物流環境の変化に適切に対応しながら、あらゆるステークホルダーから信頼される化学品物流会社日本一になるために、いかに付加価値の高い物流を構築できるかが求められているのです。

高い専門性が求められる輸送品群



安全・高効率・コスト削減を実現する
サプライチェーン総合物流サービスを提供

専門的領域だから
経験と知見が求められる。

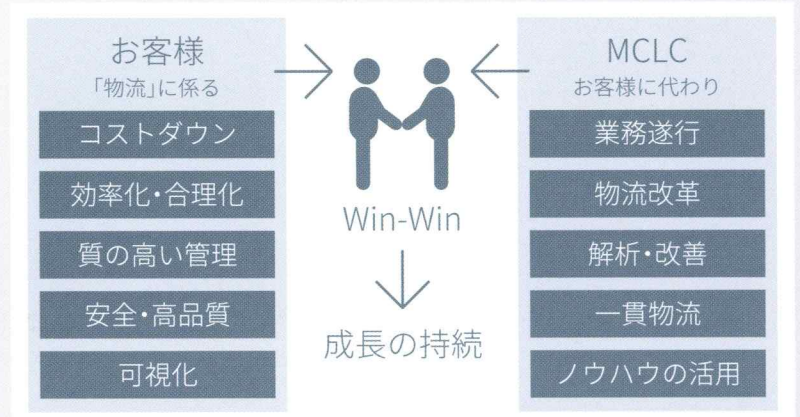
最近の石油化学や石油精製、鉄鋼等の荷主や顧客の業界は、急激なスピードで変化しています。物流においても、少量多品種・多業種にわたる商品を届ける業務がより複雑化しています。危険物や重量物、長尺物など、輸送し難いものの安定した物流へのニーズが高まっていると共に、危険物輸送に関してはより高いレベルのリスク管理が求められています。

お客様の良きパートナーとして
多様な視点で提案することが求められる。

当社は、半世紀にわたって培ってきた化学品物流の経験と知見を活かし、お客様の立場で考える物流改革を提供しています。

- 「物流費を削減させたい」
- 「要員の合理化が必要」
- 「物流品質を向上させたい」

物流に関わるさまざまな課題について、まずは実態を可視化し、真因を把握した上で「全体最適」を考えながら、お客様にとって最も付加価値の高い物流サービスを提案することが我々の使命です。



「止めない」使命があるから
惜しみない設備投資を行う。

高品質な物流サービスを安定的かつ継続的にお客様にお届けするため、事業の拡充・強化に注力しています。船舶においては、社船、支配船、連続トリップ船を合わせて30隻以上を運行しています。また、川崎と尼崎という東西の要となる臨海工業地帯にタンクヤードの拠点を構え、合わせて70基以上ものタンクを管理。これら充実した設備によって、お客様のニーズに効率的にお応えしています。設備投資に加えて、社員教育の充実にも積極的に取り組んでいます。化学品物流に不可欠な化学物質の取り扱いに関する知識教育を、取扱者だけでなく、全社員に向けて実施しています。



「さまざまな分野に、 活躍できる フィールドが広がる」

半世紀にわたり化学品物流で培ってきたノウハウ・安全性・信頼を基盤に、お客様のロジスティクス全体の物流改革に取り組んできました。また、改善の企画力と併せ改善の内容を自らの手でやり遂げる実行力も持っています。そして領域は、化学品だけでなく、医薬品や各種部材、一般雑貨まで幅広い輸送ラインナップへと広がりました。すべては、経済の本流を「止めない」ため。

私たちのフィールドは、これからも広がり続けています。

運ぶ

陸運



海運



陸運部門は、トラック、タンクローリー、コンテナや鉄道など、さまざまな輸送手段の組み合わせと、全国に展開する輸送ネットワーク網を駆使し、最適な輸送サービスを提供します。

海運部門は、タンカー船(化学製品、高圧ガス製品、オイル製品)や一般貨物船など多岐にわたる貨物輸送に対応する船団を保有し、独自の安全管理システムを駆使した「安全輸送」を提供しています。

Interview

P.08

高める

生産物流



工場で生産された製品を梱包・包装し、倉庫等で一時保管して出荷するまでの物流業務を生産物流と呼んでいます。生産物流部門では、業務を安全に効率よく行うために、作業全体のコーディネーターとしての役割が求められます。

Interview

P.09

広げる

国際物流



国際物流部門は、海上コンテナ、ISOタンクコンテナを主力とした国際複合一貫輸送を実施しています。国内・国外の輸送と輸出入業務を一貫して行う国際複合一貫物流体制を構築し、付加価値の高い物流サービスを提供しています。

Interview

P.09

設計する

ソリューション



化学品の物流を通じて培った“安全かつ確実な物流”のノウハウと“物流設計力・ソリューション力”で、お客様が抱える多様な問題を解決するのが「ソリューション」部門の使命。人の力と現場の力をベースに、さまざまなツールや効率化手法を駆使しています。お客様と一体となり、サプライチェーンの全工程において物流の最適化を実現します。

Interview

P.10

守る

包装資材



高品質な包装・資材を適正な価格で取り扱い、ご提供することが包装・資材事業部門の役割です。材質や形態が進歩しても「大切なものを守るための工夫」が「包材」の原点。私たちの使命はお客様の「大切な物」を安心と信頼で包む商品をお届けすることだと考えています。

Interview

P.10

支える

技術



共通管理



技術部門は、業務の生産性や効率性を高める高度な物流サービスを提供するために、大きな役割を果たしています。共通管理部門は、企業活動を時に陰になり、また時に日向になりながら支えていくことで、明るく活力ある会社づくりに貢献しています。

Interview

P.11



運ぶ

陸運

この仕事のやりがい

物流を担うこと、それはさまざまな産業の営みを支えるための、血流を担うことであるとも言えます。今や社会に欠かせなくなったこの役割の中で、私は陸運部門(トラック・コンテナ)を担当しています。樹脂・カーボン・危険物などの輸送を主とし、荷主・協力会社の方と共に「いつ、どのように運ぶのが最適であるか」「この輸送にかかるコストは適切か」など、多くの問題に対し多角的な視点で検討を行っています。検討の過程を経て、どれだけ高い専門性を持つ製品であっても、安全かつ低コストでの輸送を実現することが、私に課せられた責任でもあります。一筋縄では進められない仕事ではありますが、自分の役割が産業の営みの中の血流として、大きな意味を成していくという感覚が、モチベーションであり大きなやりがいです。

私のこれから

まず目先の目標として、上司や先輩の指示がなくても、自分一人の力で仕事を進められるようになることです。私の仕事は、荷主や製品によって検討事項や手法が全く異なります。常に新しいことに取り組む日々は、刺激に溢れています。しかしその反面、困難なことも多々あります。それを乗り越えて無事に仕事を終えられたときには、大きな達成感を得られます。いずれは、現在担当している「輸送」以外の分野にも積極的に挑戦し、経験の幅を広げながらキャリアアップを図りたいと思っています。

RYU CHIKAKO

龍 知佳子

四日市支社 営業部 陸運2課
2015年入社



運ぶ

海運

この仕事のやりがい

私は海運事業本部内航部で、国内を行き来する貨物輸送船(内航船)のオペレーターをしています。私の目的はシンプルに「荷主のオーダーを完遂すること」に限ります。荷主がどのような製品を、どこからどこまで、いつまでに運びたいかを確認し、遅れることなく運べるスケジュールを、綿密に組み上げていきます。「どの船で運ぶのか」「運航日に船は使用できるのか」「天候のリスクはないか」など、常に先を見て行動することが重要となってきます。事故・トラブルが絶対に発生することがないように、「安全第一」を常に忘れず日々業務を遂行しており、問題なく完遂できた際には、大きな手応えを感じます。

私のこれから

私の業務は、細部の調整や交渉の積み重ねです。荷主、船長、乗務員、先輩、上司など多くの人と連携を取りながらオーダーの完遂を目指します。連携を強めるためには、普段の密なコミュニケーションが欠かせず、デスクワークの合間に時間を見つけて船を訪れるようにしています。たとえ小さくても確かな歩みが、スムーズな運行を実現し、結果、信頼へとつながります。多くの人と密に関わりながら進めていくこの仕事は面白く、いつもワクワクした気持ちで取り組んでいます。日々前進することによって、今後のビジョンをより明確にしていきたいと考えています。

SUGITA TATSUFUMI

杉田 龍文

本社 海運事業本部 内航部
2015年入社



高める

生産物流

この仕事のやりがい

私の所属する生産物流部は、生産現場と非常に近く、自分の目の前で製造された製品が納入先へと出荷されるまでを見届けることができます。私の主な仕事は、作業員の業務管理をすることです。200人近くの作業員のマネジメントを行いながら、500を超える品目の把握、月間数万トン以上生産される製品の作業管理など、スケールの大きさはここでしか味わえない醍醐味だと思います。また日々現場とのコミュニケーションを欠かさず、互いに信頼を築くことを大切にしています。たとえ複雑なスケジュールであっても、多くの方の協力を得て円滑に対応することが、私の使命でもあります。製造された製品が納入先へ出荷される光景を通して、社会に貢献できていることを実感しながら仕事ができるこの職場を、とても誇りに思っています。

私のこれから

現在の業務や他部門での経験を経て、従来の物流業務に、さらに付加価値を加えられる存在になりたいと考えています。同時に、現場と荷主の双方から信頼されるような存在へと成長したいという想いも強く、いずれも「価値あるロジスティクス創造」という企業理念を体現していきたいというビジョンが根底にあります。これらの実現に向け、今やるべきことを考えながら、現場作業の改善や、荷主への効率化提案を積極的に行い、まずは現在の部署内で生産物流のプロフェッショナルというポジションを確立するつもりです。

SAMESHIMA TSUYOSHI

鮫島 健志

四日市支社 生産物流部 3課
2015年入社



広げる

国際物流

この仕事のやりがい

私の作成した依頼書の指示に沿って、製品の梱包やコンテナ積みが行われるため、小さなミスも許されない、正確性が求められる仕事です。プレッシャーを感じる仕事ですが、自分が何度も検討を重ねた末に作成した依頼書によって、多くの方がひとつのゴールに向かって動く様子は、今の仕事でしか見ることができない景色だと感じています。コンテナが港を目指し、出発する姿を目にすると、とても安心すると同時に、大きな達成感につつまれます。他にも、実績管理・倉庫管理などの業務も担っています。商社やメーカーの依頼により、輸出入に関する一連の業務をこなす現在の仕事に、大きな使命感と魅力を感じる日々を過ごしています。

私のこれから

経験を重ね、商談を通して荷主や納入先にとっての最善を一緒に考え実行できる、頼られる存在へと成長し、いつか海外というフィールドに挑戦したいと考えています。今でこそ高い目標を掲げていますが、以前、書類作成が上手くいかず、自信を喪失した経験があります。かなり落ち込みましたが、上司や先輩の励ましもあり、なんとか立ち直ることができました。苦い経験ではありますが、原因から改善点や反省点を見つけ出すことで、「失敗から学べる」ということに気づきました。失敗も成長の糧にしていければいい。強い気持ちを抱いて、大きなビジョンを実現していきたいです。

YOU GYOKUKEI

姚 玉馨

四日市支社 営業部 倉庫課
2016年入社



設計する

ソリューション

この仕事のやりがい

私の所属するソリューション開発部は、荷主に提供する物流サービスにさらなる付加価値を加えることを目的とした部署です。荷主の物流状況をデータ化し、解析をして問題点を見つけ出し、その解決策を考えることが私の役割です。「工場内の作業員に無駄な動きはないか」「製品・原料の保管方法は適切か」「コストは適正であるか」実際に現場を見て、データを解析することで最適解を導き出します。そして解析した課題を荷主に伝え、解決策を提案します。課題解決により荷主のパフォーマンス向上に寄与できたとき、物流コンサルタントとして活躍できた手応えを感じます。

私のこれから

現在、私の部署では社会インフラとして主流になりつつあるIoTやICTを活用し、物流をより効率的に解析する手法を検討しています。新しいツール開発を進めることで、当社の物流サービスのレベルを底上げすることができ、私自身にとっても貴重な経験になると考えています。「確部に任せておけば、この案件もきっとうまく対応してくれるだろう」と、社内外から絶対の信頼を寄せてもらえる社員になるのが直近の目標です。さらに、当社が化学品の輸送分野で日本一を目指していることを自覚しながら、その一員として組織を成長させられるプレイヤーを目指していきます。

ISOBE HIROAKI

磯部 浩誠

本社ソリューション営業第2本部
ソリューション開発部 LIFEグループ
2008年入社



守る

包装資材

この仕事のやりがい

私は、三菱ケミカルホールディングスグループに対して、製品の包装資材を供給する業務を担っています。包装資材は世界各国から質が良く安価なものを探し出し、グループ内で扱われている製品に適しているかを吟味します。同時に、実際に包装をする現場に赴き、「現在の包装資材より適しているか」「作業効率は落ちないか」「トータルコストは下がるのか」などを検討していきます。新しい包装資材を現場に導入する業務の要は「説得」です。現場の納得が得られなければ、導入する意味がありません。「これは良いものだ！」という点張りではなく、多角的なアプローチで多くの人を納得させるのは難しいですが、物流のコストダウンを実現し、グループ全体に利益をもたらすことができる面白さや達成感を得ることができます。

私のこれから

この仕事を10年経験しましたが、理想像の6割ほどまでしか到達していないのが現状です。世にある全ての包装材料を知識として習得することが道だと信じ、進んできました。また現在の業務である包装・資材事業を、より責任ある立場から統括できる人材になることが直近の目標です。さらに、三菱ケミカルホールディングスグループ全体の仕事を請け負えるような実力を、私個人としても事業本部としても身につけ、私個人、事業本部、グループ全てが発展していけるようなキーパーソンになりたいと考えています。

SAKAI JUN

酒井 純

本社包装・資材事業本部 事業統括部 事業運営グループ
2008年入社



支える

技術

この仕事のやりがい

私は物流設備の新設・増設・更新の仕様検討や導入、工事の管理を担当しています。単純に新しい設備を導入するだけではなく、現場で実際に設備を使用するオペレーターからの要望をより具体的に実現します。仕様決定後はメーカーに製作を依頼し、完成した設備を現場に導入後、計画通りに使用できることを確認するまでが仕事です。メーカーへの交渉の際、現場がこの設備を要望する理由と根拠を、熱意をもって説明することで、設備のもつ付加価値は飛躍的に上がります。実際に導入し、現場に貢献している光景を見ると、大きな達成感を感じ、さらに向上心を高める原動力になっています。

私のこれから

最適な物流設備を現場に届けられるようになるのが目標です。現場の要望をうまく汲み取れないまま、これらの仕様を変えてしまうと、現場だけでなく社会にまで危険を及ぼす可能性があります。「現場はなぜこの要望を出しているのか?」「なぜこのような仕様が必要なのか?」「これで現在の不満を解消できるのか?」と、本質の理解を深めることが重要です。また、このような物流設備を手がけるには、製品特性の理解や法律的知識、高度なコミュニケーション力など、多くの能力を要します。これらをクリアし、さらに多くの業務に挑戦し、将来的には、物流設備のプロフェッショナルへと成長したいです。

SHIMIZU RUKA

清水 瑠夏

水島支社 技術部
2016年入社



支える

共通管理

この仕事のやりがい

全従業員が良い仕事をするための、快適な職場環境を整えることが私の役割です。従業員にとっての働きやすい環境とは何か、常に考えを巡らせながら日々業務に取り組んでいます。例えば、給与・労務等の相談窓口は、従業員のリアルな声を聞く貴重な機会となるので、制度や新しい体制づくりに反映させます。私の仕事が従業員の「働きやすさ」につながり、最終的にそれが「当たり前」になること。裏方ながら会社の成長に寄与できる、大きな責任とやりがいを感じています。

私のこれから

日々、多くの従業員から、さまざまな相談を受けます。働きやすい環境を共に目指すパートナーとして、意義のある対話ができるよう、給与・労務に限らず、現場のリアルな現状や他企業の取り組みなど、日頃から幅広く知識を収集しています。経験がまだ浅く、従業員からの相談に対し、上手く受け答えできないこともあります。自分の仕事の原点を忘れずに経験を重ね、誰からも「中川さんに相談すれば解決する」と思われる存在になれるよう、精進していきます。また、これまで以上に周囲にも目を向けて、改善できることがないかを日々考えながら、より快適な職場づくりに取り組んでいきたいと思っています。

NAKAGAWA NAO

中川 奈緒

水島支社 総務部
2016年入社

「MCLCとは？」

モノを運ぶ。
一見、単純でありながら、多くの関係者と複雑な工程を経て実現する
当社のサービスを提供していくためには、「人」との関わりが欠かせない鍵となります。

当社で働く社員が、日々何を感じ、何のために働いているのか。
その一端をご紹介します。



先輩の赤ちゃんを抱かせてもらったときに、それぞれの社員には守るべき家族がいることを切に実感しました。

大胆に提案し、慎重に仕事をす
る。仕事は大胆に進めながら、
あらゆる可能性を考慮し、準備
を怠らないことが大切だと思
います。

他部署の部長から直接評価を
いただきました。継続が実を結
び、自分の成長を認識できたこ
とで、さらに成長への意欲が高
まりました。

「あなたが頼みに来たらOKしよう
とっていた」。この言葉は、職場内
のコミュニケーションを重視してい
る中で、本当に嬉しかった。

「80点でも60点でも良いから早めに進めて、本番までに
100点にしよう」という言葉をいただいたことがあります。
仕事は一人でやるものではありません。周囲の理解・協
力を得なければ仕事は進まないと感じました。

私の使命は「変化の原動力」になる
こと。ヒト・モノ・カネ・情報など、さま
ざまな状況に対応した変化が必ず必
要になります。私自身がその変化を
推進していくために、何をすべきか
を常に考えています。

部署を異動する際に
「手離したくない」と
言ってもらえたことが
あります。

「ノウホワイ (Know-Why)」。

普段何気なくやっている事や決まり事でも、常に本質を意識
して「考動」するよう心掛けています。

「つながり」を感じることができる会社だと思います。どんな
場所や職場でも、さまざまな「つながり」によって、一緒に過
ごせる仲間がいることは非常に心強いです。

自分にしかできないことをひとつでも多く
見つけたい。会社のため、一緒に働く人たち
のために役に立ちたい。

やるべき仕事を積み重ねた結果、
自分のやりたかったことにつな
がったのはとても嬉しかったです。

トラックの配車業務を担当して
いた頃、当初は決められた数量
を積む、ということしか考えるこ
とができませんでした。次第に、
安全で効率良く積み込む方法
を考えることができるようになり、
乗務員の方に、「ちゃんと俺
たちのことも考えてくれるよう
になったな」と言われた時はと
ても嬉しかったです。

みんなが毎日楽しいと感じながら働ける会
社にしたい。そして、一人ひとりが会社やお客
様から必要とされていることを実感しなが
ら、自発的にプラスαのサービスやアイデア
を提供できる集団になっていきたいです。

「価値あるロジスティクス」を創造するのは「人と組織」

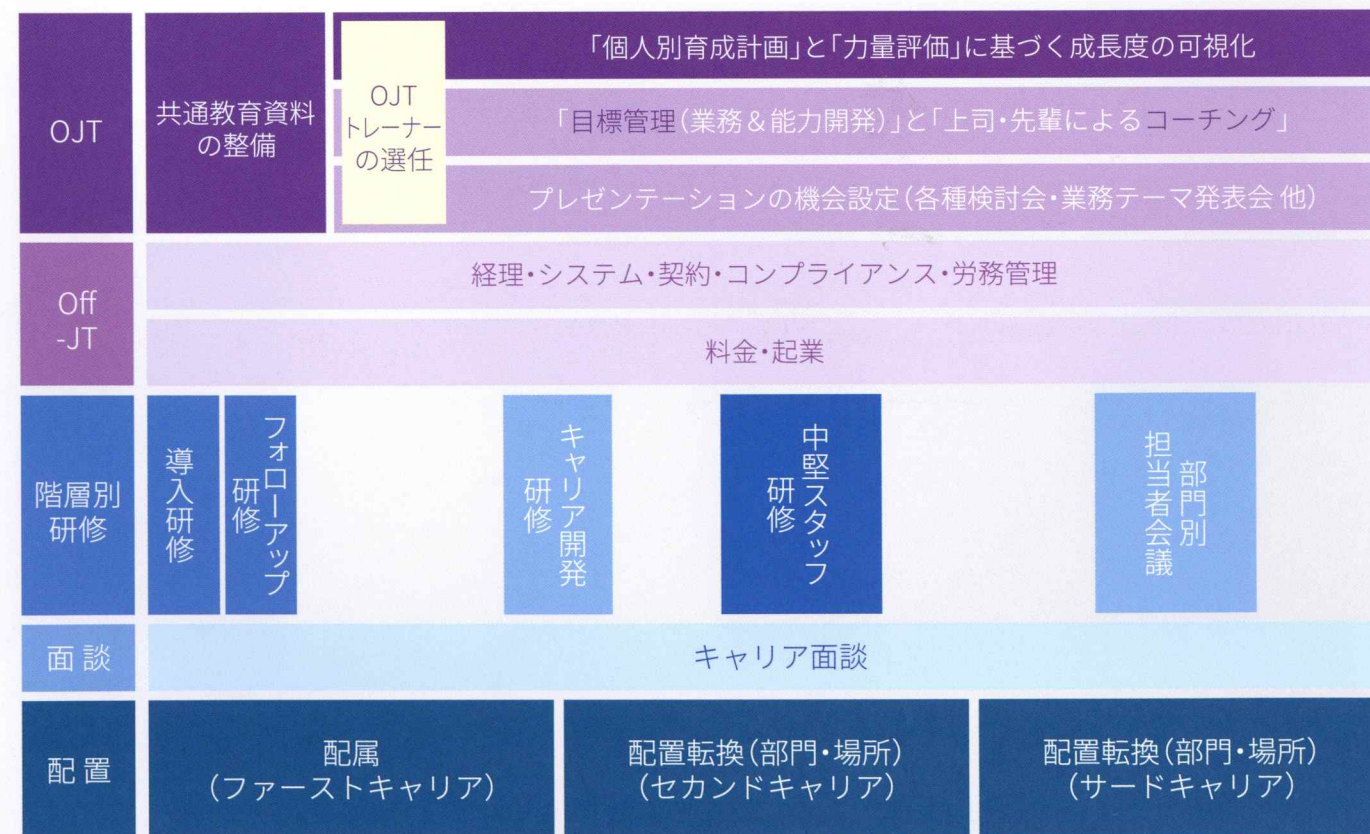
お客様にとって快適な物流を実現するために、大切なのは「組織力」。
そしてそれを構成する「人」です。
当社では、社員一人ひとりの学ぶ意欲を存分にサポートする充実した制度が広がっています。

失敗を恐れず変化への対応に挑戦し、グローバルに通用する価値あるロジスティクスを創造できるプロフェッショナル人材を育成することを目的に、成長段階モデルに合わせた育成体系を整備しています。

Career

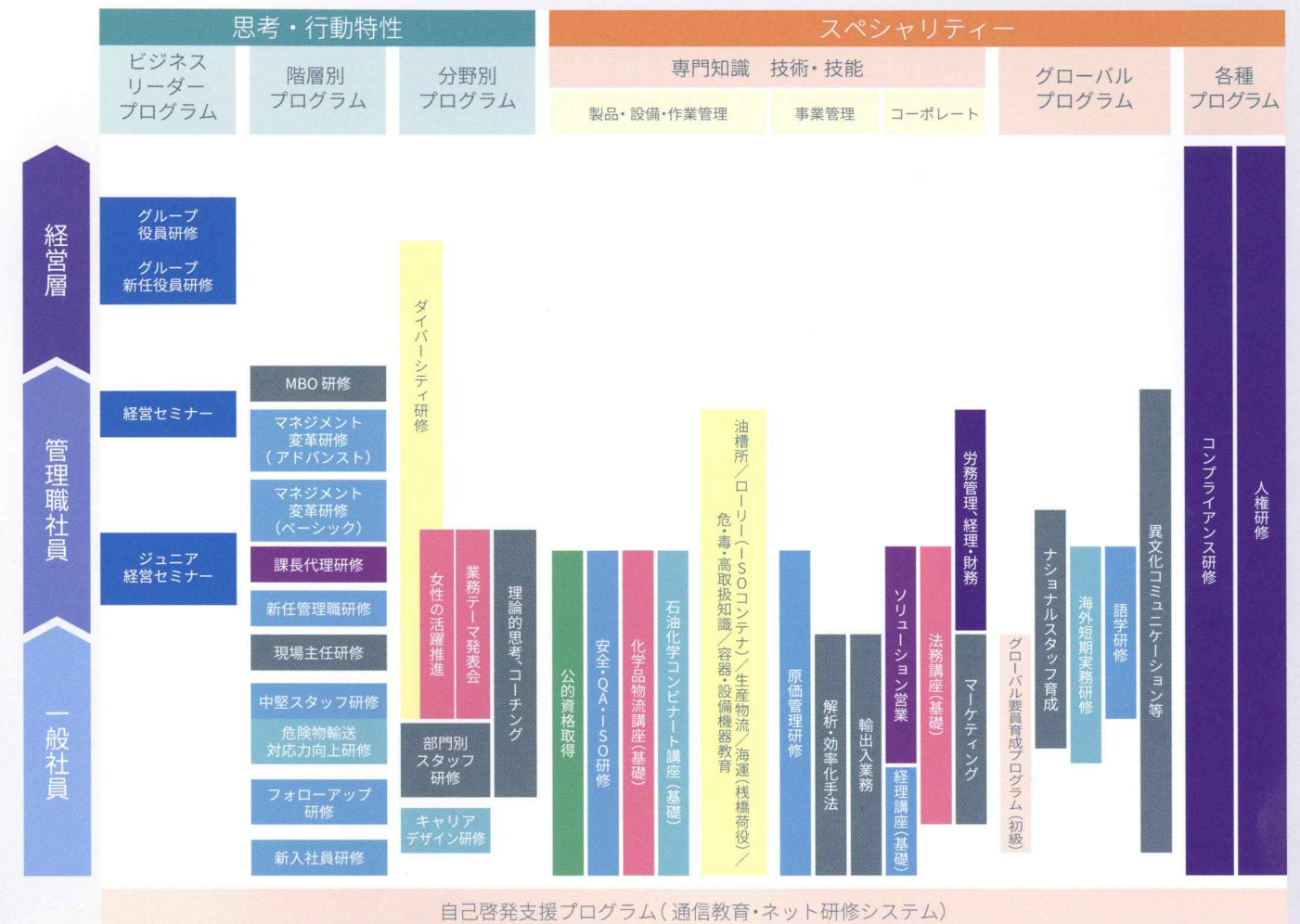
社員の成長段階モデルと育成の基本体系(イメージ)

ルーキー	メインプレイヤー	プロフェッショナル
入社1~3年目	4~8年目	9年目以降
ビジネスの基本を身につけ組織の一員となる段階	任された仕事を独力で遂行しながら力量を高める段階	創意工夫を凝らしながら組織の課題を実現する段階



Education&Training

MCLC教育プログラム体系



集合研修

OJTを基本とし、実際の仕事を通して、それぞれの能力を高めていきます。集合研修では入社時の導入研修をはじめとして、フォローアップ研修、階層別研修、部門専門教育、管理職研修などあらゆる機会を通じて積極的に社員各人のスキルアップに取り組んでいます。



海外語学／実務研修

海外駐在員候補者の早期育成と、海外での実務を通じた仕事の進め方や企業文化の理解を目的として、候補者選抜の海外語学／実務研修を実施しています。MCLCの海外拠点にて、1年間(原則)、語学のレベルアップ、海外実務のスキルアップに集中的に取り組めます。



資格取得支援制度

業務上必要となる資格取得の為に、テキストの購入や事前講習、受験費用、交通費などの費用負担や、社内での試験対策の勉強会の開催など資格取得をバックアップする制度があります。これらの制度を活用し、皆自己研鑽・スキルアップに励んでいます。

- 【指定資格の一例】
- 危険物取扱者
 - 毒物劇薬取扱責任者
 - 衛生管理者
 - 運行管理者
 - 消防設備士
 - 通関士 など

キャリア面談

長期的な視点に立って、自ら主体的・能動的に、仕事のかかわり方を考えていく自律的なキャリア形成を支援するため、年1回面談を実施しています。

通信教育

各人の能力開発目標に基づく自己啓発の一助とすべく様々な講座を用意しています。

THE KAITEKI COMPANY 三菱ケミカルホールディングスグループ

 **MCLC** 三菱ケミカル物流株式会社

<http://www.mclc.co.jp/recruit/>